

令和5年度

劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化)

成果報告書

団 体 名	特定非営利活動法人鳥の劇場	
施 設 名	鳥の劇場	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業	
内定額(総額)	20,468	(千円)
公 演 事 業	17,392	(千円)
人 材 養 成 事 業	3,076	(千円)
普 及 啓 発 事 業	0	(千円)

1. 事業概要

(1) 令和5年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数 (人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	大人も楽しめる子供のため上演 不思議の国のアリスの「帽子屋さんのお茶	2023/4/29～5/21	「帽子屋さんのお茶の会」村上厚二、松下朋花、後藤詩織ほか 舞台美術：中島諒人、音響：原伸弘	目標値	1,700
		鳥の劇場		実績値	992
2	日韓共同製作「小さなエイヨルフ」	2023/9/14～9/17	「小さなエイヨルフ」ファン・ギユチャン、齊藤頼陽、キム・ドヨンほか 舞台美術：中島諒人ほか	目標値	400
		勝谷体育館		実績値	191
3	三島由紀夫・近代能楽集「卒塔婆小町」「弱法師」上演	2024/2/9～2/25	「卒塔婆小町」「弱法師」阿部一徳、齊藤頼陽、小菅紘史、高橋等ほか 舞台美術：中島諒人ほか	目標値	840
		議場劇場（鳥取市役所庶務課総合事務所）		実績値	769

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和5年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数 (人)	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	子どものための「小鳥の学校」	2023/6/25～ 2024/3/24	「食物語」小鳥の学校受講生 構成・演出：小鳥の学校受講生、中島諒人	目標値	参加者：20・入場者：360
		鳥の劇場		実績値	参加者：18・入場者：277
2	65歳以上の“おとなな”方たちと創るリーディング上演「おとなな劇場」	2023/11～2024/3/17	「留守」「百三十二番地の貸家」「可児君の面会日」おとなな劇場 参加者 演出：齊藤頼陽	目標値	参加者：10・入場者：60
		鳥の劇場		実績値	参加者：11・入場者：82

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>ミッション（社会的役割等）・ビジョンや地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>ミッションとして、1 感動、共感、他者とのつながりの創出 2 教育、人材養成 3 地域活性化の基盤として「観光」とつながる を掲げた。まずは公演活動3つを通じて、ミッション1にアプローチした。「帽子屋さんのお茶の会」は、親子で楽しめる作品として新型コロナ明けのリスタートのシンボルとして、多くの観客に劇場で他のお客さんと共に芝居を楽しむ喜びを提供できた。日韓共同製作「小さなエイヨルフ」は、イプセンの後期代表作を通じて、貧困という社会課題に対するやさしさや連帯というメッセージを発することで、多くの観客の感動、共感を呼ぶことができた。それが日本と韓国の共演という形であったのも、国際的な課題意識の共有として非常に評価された。三島由紀夫・近代能楽集「卒塔婆小町」「弱法師」上演は、作家の魅力もあり、地域外からの集客も多く、ミッション1だけでなく3の成果もあった。</p> <p>ミッション2については、子どものための「小鳥の学校」が小5から中3を対象とした事業として、演劇創作体験を通じての人材育成的な意義を大きく果たすことができ、3月の公演も観客に大変高評価で、ミッション1の成果もあった。65歳以上の“おとなな”方たちと創るリーディング上演「おとなな劇場」は、90歳代までを含む応募があり、観客席にも高齢の方の多く来場され、高齢者の健康増進やつながり創出の効果が見てとれた。総じて、当初予定通りに事業を進めることができた。</p> <p>ミッション3については、毎年、大型連休時期の上演には県外からの来場者が多く、「帽子屋さんのお茶の会」においては、岡山、島根、関西圏からの集客があり、劇場周辺の豊かな自然環境と合わせて、ここでしか楽しめない観光体験の提供機会となった。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>・文化的意義 鳥取は、若者の演劇活動もあまり盛んでなく、現代演劇の上演がほとんどない。そんな中で親子で楽しめる別役作品、イプセン作品の日韓俳優共演、三島由紀夫の作品、どれをとっても鳥の劇場の活動がなければ実現しない上演であり、地域の文化水準の向上に大きく貢献できた。また、『小さなエイヨルフ』、三島二作品は批評家からも非常に評価が高く、我が国の文化・芸術水準の向上にも寄与できた。</p> <p>・社会的意義 多様な作品の上演、子どもの人材育成プログラム、65歳以上の方のための参加型プログラムを組み合わせることで、娯楽や消費の場としてだけではない劇場の意義、地域の出会い・交流・未来づくりの場としての劇場の意義を社会的にアピールできた。本助成がなければ、鳥取という人口の少ない地域において、どの事業も実施が困難なものであり、本事業により、芸術的な感性の育成、シビックプライドの醸成、人材養成等が可能となった。</p> <p>・経済的意義 日韓共作の『小さなエイヨルフ』においては、韓国からの来客もあり、人気の三島作品二本立ては関西エリア、東京からの集客も多くあった。三島上演、「小鳥の学校」「おとなな劇場」は、2、3月に連続して行われたので、この期間、劇場近くの飲食店9店と連携し、飲食店の利用でかんげきチケットが100円割引となるクーポンを配布するという企画を実施した。冬の人の動きの少ない時期に93枚の利用があり、地域で非常に歓迎された。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

目標1 魅力的な作品により、より多くの観客に感動を味わってもらう 公演事業1、2、3について

指標 全観客対象のアンケートによる満足度調査を実施

・観客に観劇の満足度を五段階（かなり不満 不満 ふつう 満足 大変満足）で評価してもらい、「満足」以上の評価の率を75%(回収したアンケート数を100として)以上とする。

実績

『帽子屋さんのお茶の会』92.8% 内訳：満足31.3% 大変満足61.5%

『小さなエイヨルフ』90.7% 内訳：大変満足50.0% 満足40.7%

『卒塔婆小町』98.7% 内訳：満足35.9% 大変満足62.7%

『弱法師』98.1% 内訳：満足34.4% 大変満足63.6%

目標2 観客を増やす(ビジョン・「公演事業の充実・観客増」) 公演事業1について

子どもも楽しめる作品の動員は、近年に安定的に伸びている。劇場体験の第一歩として親子向け公演を利用して一層の地域への浸透を狙う。

指標 ・公演の入場数を1000人以上とする。

実績 『帽子屋さんのお茶の会』動員数992名

目標3 観劇体験をもっと深いものにする 公演事業1、2、3について

・プレトークの実施により、上演戯曲について、作家や時代背景、登場人物の関係等を説明する。これにより観劇体験をより深めてもらう。

・毎公演後のアフタートークの実施により、観客の作品理解を深いものとする。また、感想等を観客から聞くことで、一つの作品について多様な理解や感じ方があることを確認し、劇場が多様な価値観の交差する深い人間理解の場であることを示す。

指標 プレトークとアフタートークについて体験した人を対象にインタビューを実施し、プレトーク、アフタートークによって劇場体験が深まったかどうかを確認する。

実績

『小さなエイヨルフ』 はい88.6% いいえ11.4%

『卒塔婆小町』 はい83.6% いいえ16.4%

『弱法師』 はい79.4% いいえ20.6%

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業『帽子屋さんのお茶の会』は、大型連休に間に合わせるため、年度始めからリハーサルを大急ぎで行わなければならないが、この時期、毎年のことではあるがタイトな進行となった。公演数は祝日・休日と四週末を中心に行われ、学校招待公演も予定通り実施できた。

『小さなエイヨルフ』は、ソウルでのオーディション、ソウルでの稽古、日本での稽古を経て初日となった。言葉の壁もあったが、チームワークが非常に良く効率的に計画を進めることができた。

三島二作品公演は、リハーサルの終盤、俳優のコロナ罹患という事態があったが、これも当初計画通りに事業を進めることができた。どの公演事業も、事業期間（稽古期間、本番期間）はおおむね適切だったと考える。

子どもを対象とした「小鳥の学校」は6月から3月までの長期にわたる事業で、最後の発表公演に向けて子どもたちに考える機会を提供し、さまざまな創作を促すものである。25回の講座実施の中で、子どもたちの尻上がりの成長が著しく、それに応じての劇場スタッフの柔軟な対応が必要であったが、概ね計画通りに事業は進行し、事業期間も適切であった。

65歳以上を対象とした「おとなな劇場」は、五年度は参加が多く、参加者それぞれの力に合わせて相応な活躍機会の提供を目指したため、3本の作品を創作することとなった。90歳以上の高齢の参加者もあり、稽古時間もあまり長くできない状況の中で、なんとか計画通りに作品を仕上げ、二日間の公演を実施することができた。事業期間も概ね適切であった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

公演事業『帽子屋さんのお茶の会』三島由紀夫『卒塔婆小町』『弱法師』では、昨年に続き公演数を多くした。公演数を増やすことで新しい観客を開拓する試みだった。同時に若い俳優に公演数を重ねてもらうことで、技術向上・成長の機会ともした。演劇は、人件費がかさむものであり、観客数想定から公演数を決めていくことが、収支のバランスをよくしていくのに最も効果的であり、事業費の削減に資する。

しかし、現状の観客数だけを前提にしても、観客拡大に通じていけないのも事実である。劇場活動をより多くの人に身近なものと感じてもらい、多様な表現に多くの人に触れてもらうことを考えると、公演数を増やすことで新しい観客に出会うことも劇場として必要なことである。全体としてのコストを抑えるため、セットや衣装などの費用を抑える工夫もした。

人材養成のための「小鳥の学校」は、25回の講座開催のコストを2回の発表公演で回収することは到底不可能で、これも収支のバランスは良くない。が、抑えられるコストは抑える工夫をし、事業価値実現のために適切な事業費となったと考えている。

どの事業においても、当初の計画通り適切な事業費で実施を行うことができたと考えている。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

鳥の劇場の特徴（最大の資源）は、演出家である芸術監督とレジデントカンパニーを中心に、彼らクリエイターが本助成対象事業（公演事業、人材養成事業）を含むすべての事業に関わっていることである。この活動の20年以上の継続の中で、多くの観客や応援者との良好な関係の蓄積があり、そういう人たちにもっと喜んでもらいたい、新しいものを届けたい、その輪をもっと大きくしてより多くの人に喜びを届けたいという思いが、活動の根源的原動力となっている。

以下、クリエイターが多く常駐していることで可能になっている、本助成金関連の地域の文化拠点としての機能である。

1 質の高い作品創作

演劇創作は、一人ひとりの俳優の力もちろん大切であるが、チームとして劇世界を動かしていくことも同様に大切なことである。一回限りのプロジェクトとしての公演の良さもあるが、しっかりしたアンサンブルでなければ達成できない創作の水準がある。客演の俳優にも、この関係を土台にして創作に加わってもらうことで、その力を創作全体の中で有効に活かすことができる。

公演事業『帽子屋さんのお茶の会』は、新型コロナの法律上の位置付け変更前後の非常に象徴的なタイミングでの上演で、劇場活動のコロナ後の再スタートを宣言するような作品であった。「お茶会＝他者との出会いの場」への期待と不安から始まり、別役作品らしい言葉のコミカルな混乱を経ながら、最後は祝祭的な盛り上がりを生み出すことができた。

公演事業『小さなエイヨルフ』は、韓国の俳優4人との共同作業。主人公の夫婦が「個」の追求から、助け合い・分かち合いへと人生の方向を転換していく物語は、大きな現代性と普遍性を持っていて、国をまたがった共同作業の価値を十分に持ったものであったし、成果も非常に豊かなものとなった。国際共同制作は、相互の信頼と充実した創作環境なしには実現できない。その点、これまでの活動の中で醸成してきた韓国の演劇人との相互信頼、そして劇場周辺の美しい環境も含む演劇創作環境は、創作の質を大きく支えた。そのような国際的創作作業が地域の劇場で行われることは、地域の文化拠点として非常に大きな価値を地域社会に示すものだった。

公演事業『卒塔婆小町』『弱法師』は、静岡県舞台芸術センターの中心俳優・阿部一徳氏を客演に迎えた。阿部氏は、鳥の劇場での出演歴も多く、鳥の劇場の俳優陣にも非常に多くの学びを与えてきてくれた。三島作品独特の絢爛な言葉をどのように語り、観客にどのようにイメージを届けるかが作品創作の重要な主題だったが、レジデントカンパニーが蓄積してきた創造性が、阿部氏との関わりの中でさらに充実していき、見事な舞台成果となった。この上演は、劇場の工事で予定していた劇場が使えなくなり、鳥取市鹿野町総合支所3階の旧鹿野町議会議場を改造した「議場劇場」で行われた。キャパ80人ほどの狭い空間で展開する濃厚な劇世界は、従来の三島ファンだけでなく多くの観客の心を捉え、県外からの集客も多かった。この事業も、地域の文化拠点として、日本演劇の優れた資産の価値を、創造性高く地域内外に発信することのできた事業だった。

2 人材養成事業へのクリエイターの関わり

鳥の劇場では、俳優も継続的に企画に関わっているので、人材養成事業においてもその立案から創造的な視点が十分にあり、過去の同種事業実施を踏まえた改善対応も柔軟に行われている。

教育分野では、青山学院大学大学院との連携のもと、学校教育での表現ワークショップの実践が10年以上重ねられており（本助成外事業として）、その成果を、人材養成事業「小鳥の学校」に活かすことで、創造性や協働性、実行力を含む非認知的能力を参加者に育成することについて大きな成果を挙げている。子どもたちが台本を書き、セットを作り、衣装や小道具も自分たちで考え製作し（劇場備品も一部使用）、作詞や作曲も行う成果発表会は、通常の子どもの演劇発表会のような、大人の指示により作られる作品とは全く異なるイキイキさと創意にあふれるもので、クリエイターの常駐する劇場だから可能な事業である。

65歳以上を対象とした「おとなな劇場」は、今年は昨年に続き岸田國士の短編を取り上げ、少し動きのついたリーディングの形で発表した。演劇経験のない高齢者にとって、岸田作品は決して取り組みやすいものではなく、当初は及び腰になる参加者もあるが、ナビゲートする俳優のていねいな指導や説明、勇気づけによりみなが作品世界にしっかり入り込み、個々の参加者の魅力が伝わる楽しい発表を行うことができた。高齢者との関わりは、一回あたりのリハーサル時間をあまり長くできないこともあり、準備の日数がかかる。長期にわたるリハーサルが可能となるのは、やはり常駐するクリエイターがいるからである。指導する俳優も、演劇が高齢の方を元気にする場面に出会えることは大きな喜びであり、事業継続のモチベーションともなっている。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

- 公演事業『小さなエイヨルフ』劇評 大岡淳 掲載：トーキングヘッズ叢書 No.97

息子に障害を負わせるだけでなく、溺死へと追いやってしまった二重の罪過に対して、夫婦が贖罪を決意するラストに、中島演出はわずかの希望を託している。上層の人間が下層の人間に寛大なる慈愛を示すというその贖罪の中身が、はたして本当に解決になりうるかは疑問であり、私はこのわずかな希望にすら希望を感じることができない。だが確かに、銅鑼を鳴らしフィヨルドから——あるいは山陰の港から、あるいは韓国の港から——去りゆく船を見送って、私たちはまだもう少しの間だけ、この岸辺にとどまりたいと願っている。失われたものは元には戻らず、過ぎゆく時間をとどめることはできず、変化の先にあるのがどうのみち死だとしても、私たちはもう少しだけ抗い、高みを目指したいと思っっている——そうではないかと問われれば、それもまた否定はできない。子に先立たれるということほど不幸なことはないが、その後を生きる者たちの心情に寄り添う点で、中島はイプセンに共鳴したのだから、改めて気がついた次第である。（大）

- 受賞歴：福芸術監督で俳優の齊藤頼陽が鳥取市文化賞受賞（令和5年11月3日）

■地域社会にもたらした変化

- 1) 鹿野町わったいな祭（令和5年10月29日）

鹿野町地域振興課長と鳥の劇場の副芸術監督が仮装して進行し、盛り上げた。参加者からは「本物の舞台でやることができ、照明もついて発表しがいがあった」「観る方も観やすく、大変よかった」という声が大半だった。ふだん劇場に来ない層も訪れるきっかけになっていた。一方、「ここは、専門家のための舞台。シロウトはそんなにやれるものではない。今回はありがたいが、この場所は鳥劇さん優先で使った方がいい」という声もあった。

- 2) 職場体験受け入れ（令和5年6月）

劇場の近くの小中一貫校、鳥取市立鹿野学園8年生（中学2年生）の、職場体験事業について、令和4年度から受け入れ事業所の一つとなっている。学校や地域からも「職場」の一つとして認知されてきている。令和5年度も4人の中学生を受け入れた。中学生にとって進路を考えるきっかけの一つにもなっている。

- 3) 三島由紀夫2作品を鹿野総合支所で上演（令和6年2月9日～25日）

総合支所の使われなくなった議場を劇場として使用。いつもの劇場と違い観客と役者の距離が近く、普段経験できない観劇体験ができたとの声が多かった。いつもの来場者ばかりでなく、支所に勤める警備員さんや支所の職員さん、鹿野町の方々がお客様として観劇して下さった。

■三島由紀夫2作品公演を観劇された方からのコメント

- ・普段より近い場所での公演だったので、役者さんの表情や動きを肌で感じる事ができて楽しかったです。（大学生 女性）

- ・鳥取県内で「ちょっと行ってみようかな」と思い立ちフラリと来られる、贅沢なことが出来てありがたいです。今後の活動にも期待しています。（40代 女性）

- ・コロナ禍で動けない日が続きましたが、これからは機会を作って鳥の劇場の演技を楽しみたいと思います。この機会を得る毎に日常生活を振りかえり、新たな思いと行動につながられます。（70代 女性）

■人材養成事業「おとなな劇場」を観劇された方からのコメント

- ・「生きること」と関連するこの活動は大きな意味があると痛感しました。生きて語り演ずる事が人間としてとても重要で意味のあることでこのような活動に触れさせて頂くことがいつまでもできますことを願い希望しています。（80代 女性）

以上、地域の文化芸術の発展に大きな寄与ができたとして自己評価する。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

PLAN 計画段階

鳥の劇場は、学校や地域との関わりも多く、地域の声や課題を踏まえながら、毎年事業内容を検討し、事業の進め方なども調整している。公演事業（本助成による三事業）は、幅広い世代を巻き込むこと、作品の主題に現代性や時代を超えた普遍性を持たせること、地域の中だからこそ国際的なつながりをアピールすることをねらった。また人材養成事業（本助成による二事業）は、幅広い世代に、演劇を通じた学びや成長の喜びを感じてもらい、成果を一般に公開することで、人間性を発展させる場としての劇場の役割を広く知ってもらうことを企図した。

2006年以降の活動の継続の中、劇場のメンバーが演劇の専門家として地域に密着し、同時に生活者としても地域に生きる中で、子どもたちの様子、お年寄りの様子、あるいは地域の生活全般の雰囲気を知る中で、子ども食堂の企画に関わったり、幼稚園等での読み聞かせにも出かけ、そのつながりの中で得られた情報を計画に反映している。

DO 助成対象活動の実施

公演では、質を高めること、多くの人に届けることの二つを常に意識している。演劇は敷居が高いというのは、長年の活動の継続を通じてもなかなか越えられない壁であるが、子ども向けの上演を通じてそれが少しずつ越えられつつあるのを感じている。同時に三島作品のような抽象度の高いいわゆる名作戯曲作品の上演も大切である。停滞する地方の生活の中で、地域の未来や自分のこれからについて悩んでいる人たちに（若い人も年配の人も）、人間の存在の本質的な苦しみや悩みを扱った作品をしっかりと届けることは、芸術の極めて重要な役割で、地域の中に劇場があることの大きな意味である。採算性という意味では、極めて厳しい地域の活動であるが、芸術だけが灯せるあかりがあり、そういうものへのアクセスを人口の少ない地域の中でも保障していくことは、私たちの重要な使命だと捉えている。

人材育成事業では、実施と毎回の振り返りの繰り返しを通じて、参加者一人ひとりの多様性に対応した高い質の体験を提供できているかに常に気を配りながら、事業を実施している。

CHECK 自己評価／観客アンケート／事後評価

公演では、毎回の公演の後に芸術監督がアフタートークを行い、観客に上演の狙いを説明し、質問に答えることを通じて、観客とのコミュニケーションの成立の具合を確認し、必要なら上演に修正を加えている。観客アンケートについても毎回関係者が閲覧し修正のきっかけの一つとしている。人材養成事業についても同様で、毎回の振り返りを次回実施の進め方に反映するよう努めている。

ACTION CHECK を活かした改善

CHECK から ACTION への反映は、一年間の事業継続の中の各事業の間と、次年度計画立案の場面の両方で行なっている。鳥の劇場は小さい組織であるので、一人が複数の事業を担当しており、事業ごとの縦割りの役割分担にはなっていない。これを活かし、観客との関係や地域との関係を常に意識しながら、事業の質の向上、観客満足度の向上、地域への浸透の向上に努めている。本助成金の対象となっていない事業も多くあり、そこで得られた国内外の劇場やアーティストとのつながり、学校教育の現場や障がいのある人との事業の中で得られた知見や現場のニーズなどを、次年度以降の事業に反映させている。

地域の中での劇場活動の認知度も年々向上しており、劇場活動の公共的な価値も広く認められてきている。それが鳥取県と鳥取市、国（内閣府）の補助によるデジタル田園都市国家構想交付金による施設改修など（令和5年度から7年度実施）にもつながっており、事業を通じて組織活動は持続的に発展していると認めて良いと思われる。